

令和2年度 各会計決算の概要

第3回定例議会で令和2年度決算が認定されました。概要をお知らせします。

町財政は、平成28年度以降、各年度の実質的な収支を表す「実質単年度収支」が平成30年度まで、大幅なマイナスとなっていました（下表の中段）。

この改善を最優先課題として、令和元年度から、地域経済と町民の皆さまの生活に支障をきたさない範囲で、徹底した支出の抑制と財源の確保に取り組みました。

収支不均衡がほぼ解消され、5年ぶりに基金残高も増加となりました。

まちづくり総合計画に位置づけた施策の推進や計画的な社会資本整備（学校や公営住宅等）には、健全な財政運営が不可欠です。さらなる収支改善に取り組んでまいりますのでご理解とご協力をお願いします。

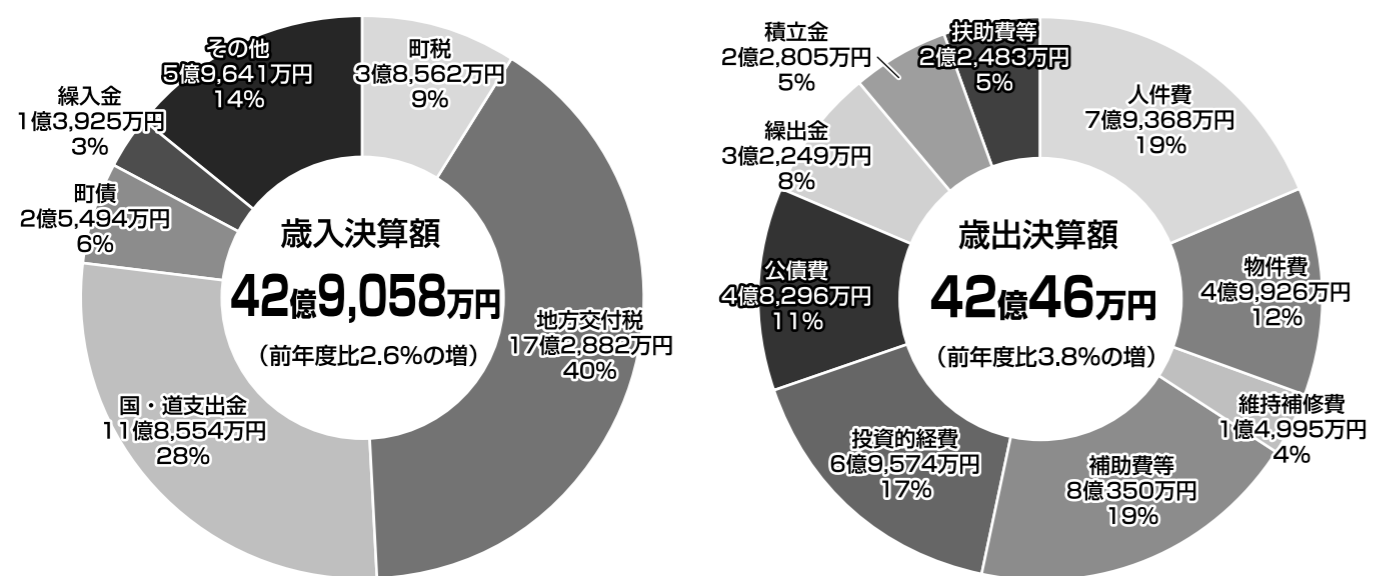
○ 一般会計 決算の推移

（単位 万円） ▲はマイナスまたは減少

区分	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
歳入		42億3,919	39億6,670	42億7,495	41億8,167	42億9,058
歳出		40億9,329	38億3,822	41億7,191	40億4,496	42億46
差引額		1億4,590	1億2,848	1億304	1億3,671	9,012
実質収支		1億46	1億1,778	9,790	1億3,258	8,780
実質単年度収支		▲1億5,180	▲8,436	▲7,565	▲667	▲150
財政調整基金残額		5億4,821	4億4,652	3億9,076	3億4,939	3億9,267
” 前年比較		▲1億2,329	▲1億169	▲5,577	▲4,136	+4,328

※実質単年度収支＝実質収支－過年度繰越金＋財政調整基金積立額＋地方債繰上償還額－財政調整基金取崩額

歳入歳出の状況



歳入 前年度と比較すると1億891万円の増加となり、国庫支出金で特別定額給付金給付事業費補助金が2億4,840万円、地方創生臨時交付金が1億8,294万円の増加などが要因です。

歳出 前年度と比較すると1億5,550万円の増加となり、新型コロナウイルス対策に要する費用で、特別定額給付金が2億4,840万円、緊急経済対策として7,977万円の増加などが要因です。

歳出総額は 54億4,840万円

(※一般会計・特別会計合計)

前年度比3.8%の増加 (1億9,920万円増加)

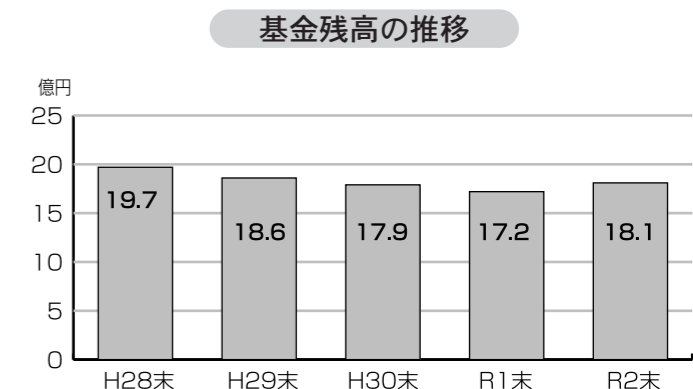
○ 特別会計の決算

会計名	歳入	歳出	差引額
国民健康保険	3億8,967万円	3億7,833万円	1,134万円
後期高齢者医療	5,051万円	4,936万円	115万円
介護保険	4億2,883万円	4億364万円	1,490万円
簡易水道事業	2億5,055万円	2億5,027万円	28万円
集落排水事業	1億6,665万円	1億6,634万円	31万円

○ 基金残高の状況 (※基金は家庭での貯金にあたるものです)

特定目的基金残高は、5年ぶりに増加しました。財政調整基金残高は前年度より4,328万円の増加となり、また基金全体の残高は9,090万円の増加となりました。

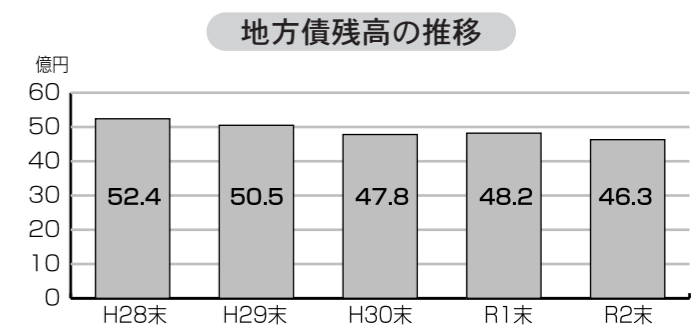
区分	令和2年度末
財政調整基金	3億9,267万円
減債基金	3,188万円
国際交流基金	3億1,653万円
国鉄胆振線代替基金	7,361万円
その他特定目的基金	5億1,707万円
備荒資金組合納付金	4億5,263万円
その他特別会計基金	2,861万円
合計	18億1,300万円



○ 地方債残高の状況 (※地方債は家庭での借金にあたるものです)

前年度末に比べ1億9,164万円減少しました。主な要因は、近年、過疎対策事業債発行額が減少しており、現在残高が前年度と比べ1億3,096万円減少したためです。

区分	令和2年度末
公営住宅建設事業債	8億4,071万円
過疎対策事業債	6億8,708万円
臨時財政対策債	12億1,918万円
その他一般会計債	6億4,988万円
その他特別会計債	12億3,186万円
合計	46億2,871万円



○ 健全化判断比率等の公表について

健全化判断比率は、まちの財政状況の健全度を示す指標です。

本町は、基準値を超える項目はなく、引き続き、健全な財政運営に取り組んでまいります。

健全化判断比率

	壮瞥町	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	赤字なし	15.0%	20.0%
連結実質赤字比率	赤字なし	20.0%	30.0%
実質公債費比率	12.6%	25.0%	35.0%
将来負担比率	算定なし	350.0%	

資金不足比率

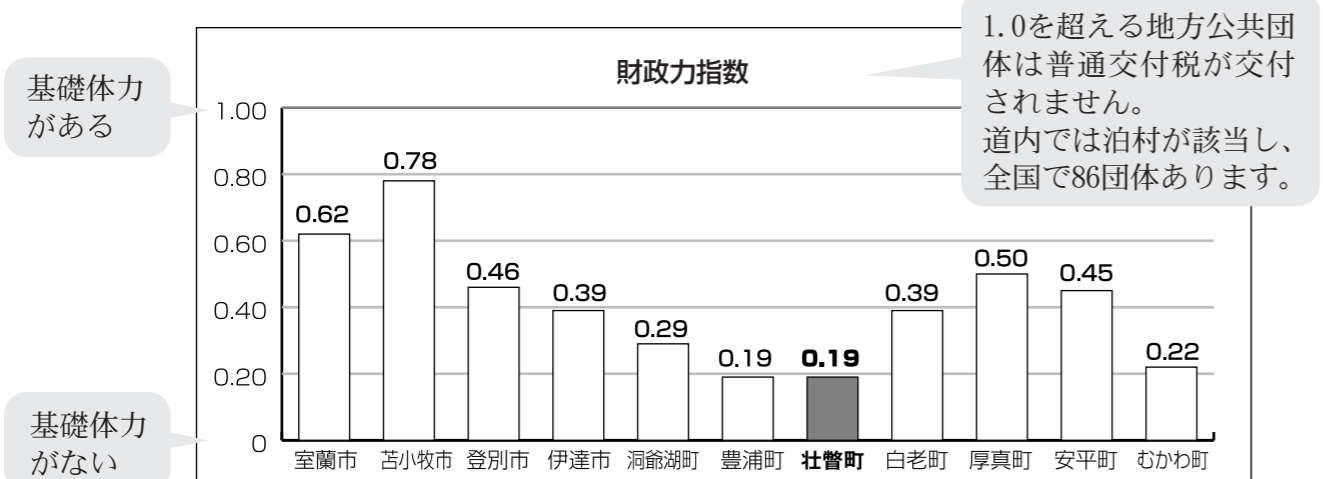
	壮瞥町	早期健全化基準
簡易水道事業特別会計	資金不足なし	20.0%
集落排水事業特別会計	資金不足なし	20.0%

財政の指標を他市町と比較（※令和元年度決算）

これまで、令和2年度の決算についてご説明してきましたが、近隣他市町の財政状況については前年度の令和元年度までの数値が総務省の決算カードで公表されています。一年前の数値ですが、胆振管内の他市町との比較を行い、本町の現状を分析します。

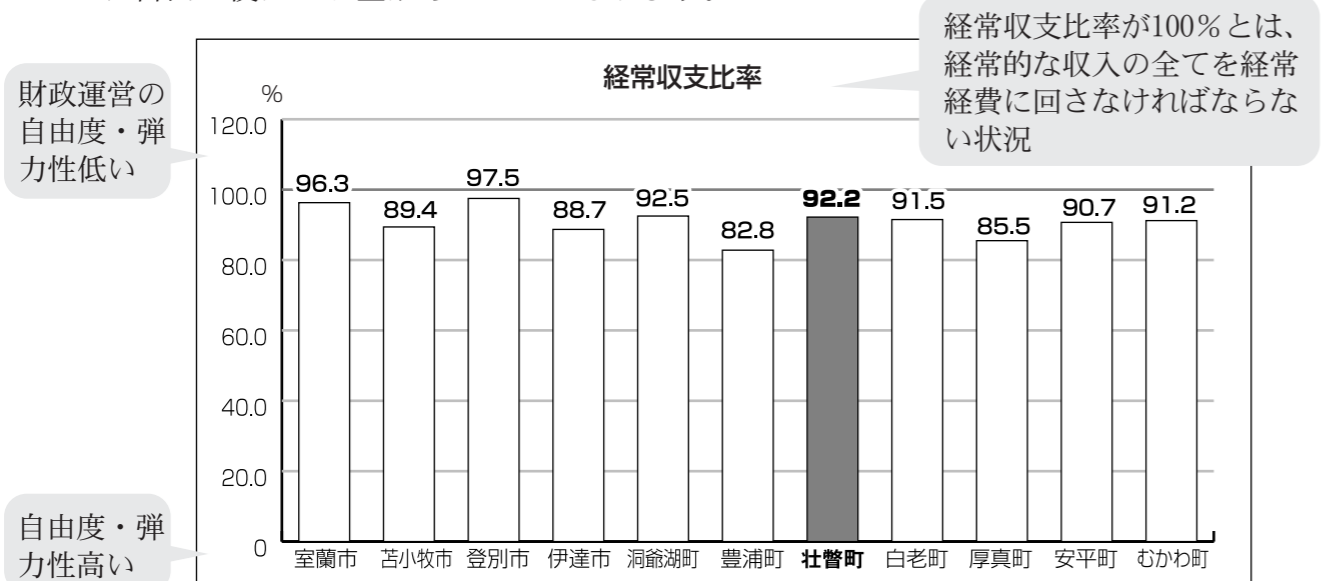
○ 財政力指数（自治体の基礎体力）

町の財政需要額が、町税など自前の収入でどれだけ賄われているかを示しており、各市町が人口や面積をもとに、一定の基準で算出した「基準財政収入額」と「基準財政需要額」をもとに算出しています。



○ 経常収支比率（どれだけ自由に使えるお金があるか）

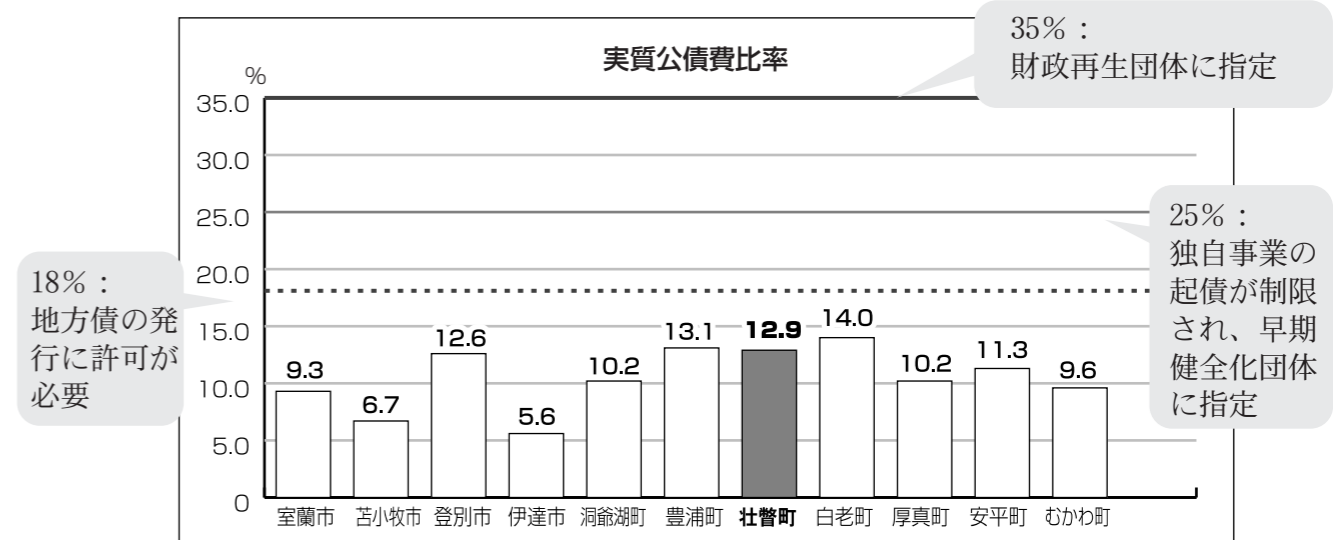
財政構造の弾力性を判断する指標であり、毎年決まって入ってくる収入「経常的収入」に対して、毎年決まって必要となる費用「経常費用」がどれだけあるかの比率です。数値が低いほど、自由に使えるお金があることとなります。



壮瞥町の経常収支比率は、R元年度は92.2と胆振管内でも4番目に高い値となっております。R2年度は91.2で、**1.0改善され、引き続き改善に取り組みます。**

○ 実質公債費比率（借入金返済の負担の大きさ）

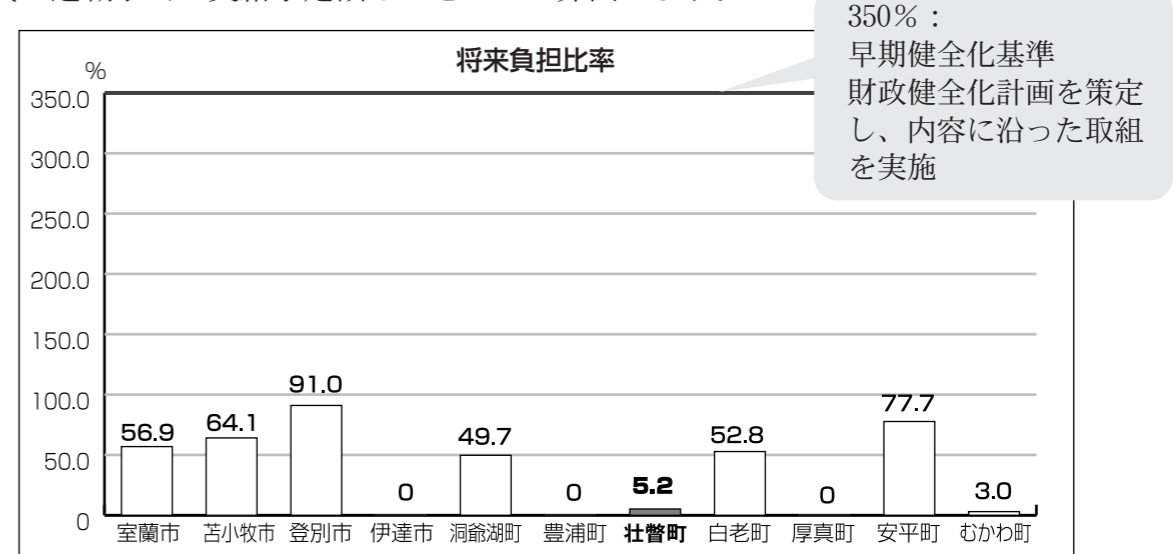
自治体が借入金の返済に使ったお金が、年間の標準的な収入に占める割合を示すものです。この数値が高いほど借入金返済の負担が大きくなります。



壮瞥町の実質公債費比率は、R元年度は12.9と胆振管内でも3番目に高い値となっております。R2年度は12.6で、**0.3改善され、引き続き改善に取り組みます。**

○ 将来負担比率（自治体の将来負担の重さ）

自治体が将来負担する必要がある実質的な負債額が、その自治体の財政の大きさに占める割合を示したもので、発行している地方債残高やその償還に充てることができる基金のほか、地方公務員の退職手当の支給予定額などをもとに算出します。



壮瞥町の将来負担比率は、R元年度は5.2となっておりますが、R2年度は**算定なし（グラフでは0と表記）に改善されました。**

【お問い合わせ先】 壮瞥町役場企画財政課財政係（☎0142-66-2121）